

項目	内容
名称	ヒナギク [英]Wild daisy [学名]Bellis perennis L.
概要	ヒナギクは、ヨーロッパや地中海沿岸を原産地とするキク科の多年草。春から夏にかけて直径2.5 cm程度の花をつける。日本では「デージー」「エンメイギク」とも呼ばれる。
法規・制度	<p>■ 食薬区分</p> <ul style="list-style-type: none"> ヒナギク (エンメイギク) 全草：「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質 (原材料)」に該当する。
成分の特性・品質	
主な成分・性質	<ul style="list-style-type: none"> 花にサポニンを含む (PMID:21720043)。
分析法	<ul style="list-style-type: none"> 葉から抽出した成分を、ガスクロマトグラフィー飛行時間型質量分析法 (GC-TOF-MS法)、液体クロマトグラフィー質量分析法 (LC-FT-MS法) にてメタボロミクスを行った報告がある (PMID:20830202)。
有効性	
ヒトでの評価	<ul style="list-style-type: none"> 循環器・呼吸器 <p>調べた文献の中に見当たらない。</p>
の評價	<ul style="list-style-type: none"> 消化系・肝臓 糖尿病・内分泌 <p>調べた文献の中に見当たらない。</p>

生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。
脳・神経・ 感覚器	調べた文献の中に見当たらない。
免疫・がん・ 炎症	調べた文献の中に見当たらない。
骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
肥満	調べた文献の中に見当たらない。
その他	<p>RCT</p> <p>・妊娠37～43週の妊婦40名（試験群28名、平均26.4±0.6歳、イスラエル）を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、アルニカ（キク科の植物）とヒナギクを含む錠剤を、出産後の悪露が終了するまで摂取させたところ（摂取量不明）、産後72時間の血中ヘモグロビンの減少を抑制したという予備的な報告がある (PMID:16036165)。</p>
参考文献	<p>(20) ハーブ大百科 誠文堂新光社 デニ・バウン</p> <p>(22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第2版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳</p> <p>(30) 「医薬品の範囲に関する基準」(別添1、別添2、一部改正について)</p> <p>(35) 新分類 牧野日本植物図鑑 北隆館</p> <p>(PMID:21720043) Chem Pharm Bull (Tokyo). 2011;59(7):889-95.</p> <p>(PMID:20830202) PLoS One. 2010 Sep 7;5(9):e12569.</p> <p>(PMID:16036165) Complement Ther Med. 2005 Jun;13(2):87-90.</p>